産経新聞　（第3種郵便物認可）

日本酒 ロシア酔わせて

今西酒造 来月にも進出

和食ブーム追い風

江戸前期の1660年創業を誇る老舗「今西酒造」（桜井市）が、日本酒の「三諸杉（みむろすぎ）」をロシアに輸出する計画を進めている。同社の海外進出は初めてで、世界的な和食ブームを追い風に販路拡大を目指す。早ければ3月にもモスクワの5軒の日本料理店で提供される見込みという。（岡田英也）

今西酒造は酒造りの神をまつる大神神社の酒の醸造にも協力している。ロシアに輸出する三諸杉は、県内で収穫された酒米・山田錦を原料にした純米大吟醸（720ミリ・リットル、国内価格で税抜き2500円）。酒米のうまみを最大限に生かした香り豊かな味わいに特長がある。

また、県内産の梅と三諸杉をブレンドした辛口の梅酒「梅杉謙信」（同、1300円）も同時にロシアで売り出す。

昨年2月、大塚製薬が全国の若手経営者の中から有望な人材を資金面で支援する企画で、今西酒造の今西将之社長(31)が選ばれたことがきっかけだった。同11月、今西社長はモスクワを視察。すし店や日本料理店の人気が出始めているロシアなら日本酒の消費拡大が期待できるという手応えをつかんだ。現地の事業者に日本酒を味わってもらい商談を行った。

近年、県内を含めた今の酒造会社が海外に販路広げている。国税庁によると、2013年の清酒の出額は105億2400円で10年前の2・7倍に加した。輸出先1位は米（38億7300万円）、は香港（17億1200円）、3位が韓国（13億円）となっているシアはトップ10に入ってないが、その分、日本の酒造会社があまり進出いないことも魅力だった。

今西社長によると、アではワインが好んでれており、同社は、フィティーな味わいの三諸純米大吟醸と梅酒を輸品に選んだという。現は高額の関税がかかり内価格の8～10倍になめ、富裕層をターゲットした価格設定やラベル示も進めている。

今後、今西社長はムへの進出も視野に入いるといい、「日本酒しんだ外国人が日本にを持ち、観光に訪れればうれしい。奈良のおいしさを世界に広い」と意気込んでいる。

ロシアに輸出する純米大吟醸と「梅杉謙信」を手にする今西社長（桜井市で）